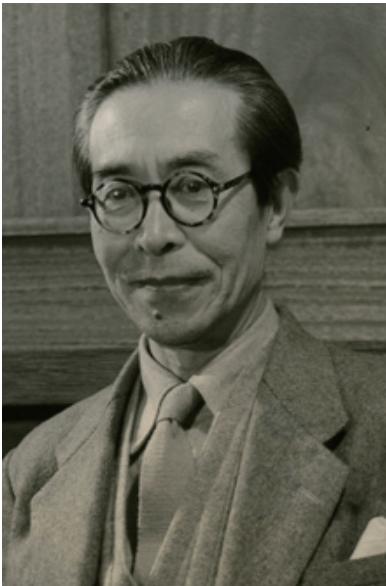


「日本の近代戯曲研修セミナー」は、私達日本演出者協会が、新進芸術家育成事業のひとつとして文化庁より委託を受け、2009年から開催している事業です。従来我が国ではあまり重要視されてこなかった、明治以降の日本の戯曲史に視点を向け、多くの絶版となっている戯曲を含めた作品の、様々な形での研修やリーディング形式での上演を通じ、私たち演出に携わる者の勉強の場とし、今後の活動に活かしたい、というのが主な狙いであります。これまでこの企画は、この地域で3回開催されました。今回は、この地域の舞台芸術創造の拠点とも言える名古屋市演劇練習館のご協力をいただき、演出者協会員のみならず、幅広く一般演劇の方々に参加をよびかけての開催となりました。日本演出者協会東海ブロックに参加する会員の中から選抜された演出チームと、参加された俳優チームにより、劇作派を代表する作家、岸田國士の6作品を研修、リーディング形式により発表いたします。

岸田國士



岸田國士（きしだくにお）

劇作家、演出家、小説家。1890年11月2日、東京四谷に陸軍士官の長男として生まれる。陸軍士官学校を経て少尉として任官するも、文学への夢断ちがたく28歳にして東京帝大仏文科に入学。1919年、フランスにわたり、ジャック・コローのヴィユ・コロンビエ座を中心に演劇を学ぶが、1923年、父の死にあい、帰国を余儀なくされる。翌年、早くも『古い玩具』と『チロルの秋』を発表し、洗練された台詞が注目される。岸田は山本有三とともに、戯曲の文学性を説く一方、戯曲が他の文学ジャンルとは異なることを強調し、森本薰ら、後進の劇作家に大きな影響をあたえた。

1932年、久保田万太郎らと共に築地座を結成。

1937年には久保田、岩田豊雄と文学座を創立。

1939年、朝日新聞に連載された小説『暖流』は同年映画化され大ヒット。

1950年、演劇と文学の立体化を掲げて小林秀雄、三島由紀夫、福田恒存らと「雲の会」を結成。石川淳、中村光夫、武田泰淳らの文学者に戯曲執筆の機会をつくる。

1954年、劇団で『どん底』の舞台稽古中倒れ、翌日死去。

中村哮夫



《シンポジウム基調講演》

中村哮夫（なかむらたかお）

1931年東京生まれ。

慶應義塾大学国文科卒。

学生演劇で加藤道夫に演劇の目を開かれ、東宝撮影所助監督時代は黒澤明監督につき、東宝演劇部に移籍後は菊田一夫に師事。

1960年代から今日に至るまで息長く、演出現場を遍歴する。

代表作 「ラマンチャの男」「王様と私」「ファンタスティックス」

「その男ゾルバ」「山吹」「釣堀にて」「雪国」「リリオム」

「ファニー」「ボーアイント・ボーアイント」etc

他に、名古屋市文化振興事業団製作による「マイ・フェア・レディー」「回転木馬」

近年、高齢演劇人劇団パラダイス一座の舞台で俳優としても活躍する。

現在、日本演出者協会 評議員。

「日本の近代戯曲研修セミナー in 東海」2012・実行委員会

石狩真佐夫（ななの会）岡田一彦（劇座）金子康雄（劇座）菊本健郎（NEO企画・実行委員長）木村繁（むすび座・東海ブロック代表）久保田明（劇団名古屋）なかとしお（フリー）前川達次郎（シアターアーツ）丸知亜矢（フリー）右來左往（フリー）本島勲（αの会）和田喜夫（楽天団・日本演出者協会理事長）

スタッフ●音響効果・後藤佳子 舞台監督・金子康雄